

バレエ ^{みはかし}御佩劍 第1番 「ビゼーティン」 脚本 ver.25

作：長い歴史の言い伝えに基づく 潤色：緑間 玲貴

これは、三種の神器のひとつ

天叢雲劍（アメのムラクモのツルギ）が生まれるまでのお話です。

時は、まだ宇宙が生まれたばかりの頃 —

「ビゼーティン」という名前の、この広い宇宙を見守る存在がいました。

宇宙を創りながらビゼーティンは、沢山の星を産み出しましたが、

最後に、中心となる五つの美しい星を産みました。

この星々を「北極星」と決めました。

同時に、北極星の周りを回り、時の流れを作り出す七つの星「北斗七星」も創りました。

ある日、ビゼーティンは北極星に言いました。

「間もなく、水を湛えた碧く美しい惑星が生まれます。

そこは栄ある星になります。

あなたは、その星に愛を与え、しっかりと見守り、育むように。」

こうして、宇宙の中でも格段に美しい水の惑星「地球」が誕生しました。

数十億年の時が流れた後、北極星の星々は、その美しい水の惑星に「北斗七星」の形をした

七つの島を贈りました。

七つの島には、それぞれ「仁、義、礼、智、忠、信、孝」の北斗七星の叡智が宿り、

また、それを象徴する「七つの劍」が誕生しました。

時が経ち、33億年に一度の彗星が地球に近づく頃 —

地球の成長を見て、ビゼーティンが仰いました。

「時が来ました。地球に文明が宿る頃です。それを全宇宙で見守り、育むのです。」

北極星たちは思いつきました。

彗星の強大なエネルギーを借りて、この七つの剣を、一つの大きな剣にして

地球上のあらゆる存在に恵みをもたらそう。

ついに、その日がやってきました。

巨大な彗星が、光の尾を引きながら近付いて来ます。

北斗七星の叡智を宿す七つの剣は、空に浮かび、大きな光の中で「一つの剣」となりました。

剣は、然るべきその時が来るまで、7つの島により護られることになりました。

それからずっと後の時代 —

強大な霊力を持つこの剣は、スサノオにより発見されました。

剣は、姉のアマテラスに献上され、天叢雲剣（アメのムラクモのツルギ）と名前がつけました。

そして、そのまたずっと後、ヤマトタケルが授けられた剣として

三種の神器のひとつとなり、その名を轟かせました。伝説は今も生き続けています。

これが、天叢雲剣が生まれるまでの、長い長い、お話しです。